

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 生徒たちの元気が梅雨空を吹き飛ばした！

18日から20日まで、第22回北信越高体連登山大会が黒姫山で行なわれた。5県持ち回りで行なわれるこの大会、長野開催は5回目となる。これまで、飯縄山（北信）、八ヶ岳（南信）、雨飾山（中信）、金峰山（東信）と県内を一回りし、北信に戻ってきた。大会に先立つ役員下見（14日に実施）は、快晴の天気だったが、梅雨入りして梅雨前線が近づいた大会当日は、開会式が始まるころから、雨が降り出し、初日の審査は雨中のそれとなってしまった。夜半強さを増した雨は降りやまず、天気図を見ても空を



見ても回復する要素は全くなく、小生は登山隊長として登山を実施するか否かの難しい判断を迫られた。19日は、4時半に起きたが、外はまだ土砂降り。みんなが私の判断を待っている。生徒からも顧問からも、そして役員からも・・・「ホントにやるの？」という刺すような視線。そんな中、出発時刻の6時に間に合うよう、濡れるのを覚悟で、出発準備。ところが・・・出発の6時少し前に、雨は小降りになった。1班が出発するときには小降りのままだったが、最終4班が出発する頃にはなんと雨が上がった。・・・そして、結局行動中はそのまま天気は持った。快晴で景色を満喫というわけにはいかなかったが、中止やコース短縮もあり得るという気圧配置の中、誰もが予想し得なかった天候の回復。まさしく生徒の元気で顧問の気持ちが前線を押し下げた・・・。



昨年計画した段階では、表登山道から山頂に至り、そのあとお鉢の中に下り、黒姫のウリと言ってもいい「七つ池」で長山協の会長の宮本先生に講話をしてもらった後下山するという周回コースをとる予定だったが、下見をした際、お鉢の中の残雪が予想外に多く、登山道も未整備で、隊行動ではかなり難渋することが考えられたので、コースはピストンとした。何時行ってもすばらしい「七つ池」に行かれなかったのは残念だったが、結果的にはこのコース短縮は正解であった。ただし、前日の雨でぬかるんだ道を130人もが歩い



た結果、「新道分岐」から「しらたま平」までの樹林帯は、まるで「泥田圃」のような道になってしまった。しかし、高校生たちはそんな道をも「きゃーきゃー」言いながら、

元気に下ってくれた。雨に比べりゃなんのそのってところだろうか。

山頂での宮本会長の講話は「黒姫山」の名前にまつわる「黒姫」伝説は実は後付の話であるなど、山の名前や文化についての興味深い話。また、山の精髓は「ロマンと科学」にあるという、閉会式前の田村長山協顧問の経験に裏打ちされた講話。どちらもいいお話で、生徒たちには山とともに思い出に残ったことだろう。

競技終了後の19日夜は、生徒は生徒で、顧問は顧問で大いに盛り上がり、北信越の親睦が大いに深まった。雨に始まった大会であったが、次第に天候が回復し、最後にはいい思い出を作っていただくことができたのではないかと自負している。大会運営にご協力いただいた県内外の先生方、そして何より、雨を吹き飛ばしてしまった生徒たちの熱気に大感謝である。

## 深志山岳部OB会、西村忠彦さん講演会

7月3日土曜日、午後2時30分より西村忠彦さんの講演会が行なわれる。西村さんは、ご存じの方も多と思うが、かつて美須ヶ丘高校などで山岳部の顧問をつとめられ、私たちの先輩として多くの山岳部の生徒を育ててくれた。自身、旧制松本中学時代から山岳部に所属したが、当時は太平洋戦争末期であり、「勤労働員で登山などままならない時代、しかし多感な旧制中学生は山への思いやみがたく、学校グラウンド北側にテントを張り、山に行った気分で記念写真を撮影した」という。長野高校校長を定年退職後は、松本市の鈴蘭幼稚園の園長をつとめ、秋には枯れ葉を集めて園児たちと焼き芋大会を行なう名物園長だった。

この講演会は、松中・深志山岳部OB会が毎年行なっている講演会として行なわれるものであるが、一般にも公開して行なわれる。「山のあなたの空遠く——憧れを抱くことを大切にしたい——」という演題で、長年教育現場に身をおいてきた経験から、西村さんが考える現在と明日を山への思いを併せて熱く語る講演会。入場無料、興味ある方はどうぞ。

日時：7月3日（土）14：30～

場所：松本市中央公民館（Mウイング）4階4号室

## 崑崙未踏峰登山、偵察許可がおりました

我が信高山岳会（信濃高等学校教職員山岳会）が昨年実施するはずであった「崑崙山脈ヤズィックアグル山群」の6770mの未踏峰への偵察。昨年は入念に準備をしてきたが、直前に起こった新疆ウイグル自治区の騒乱によって中止のやむなきに至った。仕切り直しとなった来年の挑戦にむけて、人民解放軍、自治区政府、また登山協会など新疆当局から今夏行なう偵察隊への許可が下りた。

今回の偵察隊は高遠高校の久根さんと小生の二人で組織、7月25日に日本を出発、8月9日までの16日間を予定（詳細は次号以降で紹介）している。先日、信高山岳会では実行委員会を開き、体制を整備。県教委からもすでに後援許可をいただくことができ、その他関係団体にも後援申請をしているところである。現在、最終の計画書を策定中であるが、偵察隊が2人であるため、持ち込み荷物の重量調整に苦慮しているところだ。まあ、こういう苦労も楽しみのうち。7月10日、11日には高所順応のため、富士山に登る予定。もし可能な方がいたら一緒に夢を語りながら同行はいかがでしょうか？